



大坪 正佳

東京の市街地が抱える問題は数多くあるが、そのひとつに木造建築物密集地域の災害に対する脆弱さが挙げられる。先の阪神淡路大震災のような大規模災害が発生した場合、外部からの行き届いた支援が困難となるため地域単位の自活が必要とされる。足立区柳原地域は、特に老朽化した木造建築物が密集・集積する地域であり、震災時の木造建築物の倒壊・延焼による甚大な被害が想定されている。本計画では、柳原地域の避難所

に指定されている柳原小学校の改築を通して、平常時はコミュニティの核として、災害時には防災活動拠点として機能する小学校を提案する。

そして、環境問題や石油燃料の枯渇の側面から導入が促進されつつある太陽光・太陽熱・雨水・風力等の自然エネルギーを、災害時の独立したエネルギー源としての活用の可能性から、防災対応エネルギーシステムとして計画に導入する。それでは平常時においても利用されることで、環境負荷・ランニングコストを低減し、小学校が教育の場であることから、児童や地域住民への環境問題や地域防災に対する平常時からの意識の啓

発・普及をおこなう。

指導=高宮 真介

都市的な基盤整備が十分になされない状態で急成長を遂げた、東京下町の多くのエリアは、構造的にいろいろな問題を抱えている。再開発などの手段によって、広域的な整備が可能な場合は別として、木造住宅などが密集した地域においては、災害時には甚大な被害が発生することを先の阪神淡路大震災が教えてくれた。一方、都心における小学校は、少子化の波を受け統廃合が進み、学校区というコミュニティの解体に拍車がかかっている。この作品は荒川沿岸の足立区柳原地域を取り上げ、そ

のような二つの都市問題にチャレンジし、既存の小学校の改築計画という形でその解決策を提案したものである。特にこういう地域の災害時におけるインフラの被害を考えると、エネルギー問題は深刻である。この提案ではそれに対応するべく、太陽熱、太陽光、雨水、風力といった自然エネルギーを活用し、それらを平常時にはエコロジカルな視点に立った教材として役立つようにしようとするものである。以上のようなプログラムの設定は、社会的に十分リアリティーのあるものであり、その建築のデザインを含め修士設計として十分評価に値するものだと考える。

修士設計

足立区柳原小学校の改築
—地域防災対応エネルギー
システムによる計画と設計—